

令和3年8月16日

農林水産技術センター 農林センター

大雨による浸水・冠水後の技術対策

農業技術情報（第3号）

台風第9号、及び秋雨前線の活動に伴う12日から15日にかけての大雨により、京都府内に大きな被害が出ています。また、今週も20日頃までは不順な天候が続くと予想されています。ついては、以下の事項を参考に十分な対策を講じてください。

1 水 稲

水稻は冠水時間が長くなるほど減収率が高くなります。水が引き次第、状況に応じた対応をしてください。

(1) 浸水、冠水したほ場

- ①水が引き次第、水路やほ場の泥やゴミ等を取り除く。
- ②成熟期に達している稲は、排水溝を切り排水を促すなど、ほ場の乾燥に努め、できるだけ早く刈り取る。
- ③成熟期に達していない稲は、一旦落水した後、新しい用水を入れ、その後は間断かんがいを行う。

(2) 倒伏したほ場

- ①滞水している場合は、速やかにほ場の排水に努める。
- ②成熟期に達している稲は、できるだけ早く刈り取り、品質低下の防止に努める。
特にキヌヒカリ等穂発芽しやすい品種には注意する。
- ③収穫までに日数がある場合は、無理に起こすとさらに被害を大きくする恐れがあるため、穂を茎葉の上に乗せる。株際を調べ、折損していないようであれば、5～6株ずつ緩く束ねて立て寄せてもよい。

(3) いもち病防除

- ①出穂期を迎えている中生や晩生の品種で、いもち病の発生が目立つ場合は、治療効果がある薬剤などで防除する（令和3年7月28日発行 防除所ニュース第5号を参照）。

(4) 乾 燥

- ①浸冠水、倒伏した稲は籾水分が不揃いで、高水分となっているので、高温による急激な乾燥を避け、通風乾燥により籾水分を均一にしてから乾燥する。

2 豆 類（「紫ずきん」を含む）

豆類は一般的に湿害に弱く、浸冠水時間及び滞水時間が長くなると減収率も高くなるので、水が引き次第、速やかにうね間の排水を促し滞水時間を短くしてください。また、病害が発生しやすくなるので、必ず予防防除を行ってください。

(1) 浸水、冠水したほ場

- ①水が引き次第、水路やほ場の泥やゴミ等を取り除くとともに、うね間に滞水しないよう排水を促し、ほ場の乾燥に努める。
- ②浸冠水すると病害虫が発生しやすくなるので、直ちに予防防除を行う。
特に、小豆は茎疫病の防除に殺菌剤の散布を行う。
茎葉や莢に付着した泥を落とすように防除する。
- ③土壌が乾いた後、浅く耕し、通気性を確保する。
- ④雑草が多発する場合がありますので、雑草の発生状況を確認し、必要に応じて除草剤の散布を行う。

(2) 倒伏したほ場

- ①倒伏して莢が地面についていると腐敗するので、その部分を直ちに起こす。その後、腐敗防止のため、殺菌剤の散布を直ちに行う。

3 野菜、花き

冠水したほ場では、土壌中の酸素が欠乏するため、根の呼吸が阻害され、根腐れ、茎葉の萎凋など、さまざまな症状が発生します。以下の点に注意し、速やかに必要な対策を行って下さい。

(1) 浸水、冠水したほ場

- ①マルチ栽培では、マルチをめくり土壌表面の乾燥を促す。
- ②退水後は直ちにほ場を清掃し、土が乾いた後、根を傷めないように浅く耕し通気性を確保する。また、排水溝を深めに整備し排水に努める。
- ③茎葉に泥の付着が多い場合、清浄な水や殺菌剤の散布により速やかに洗い流し、光合成の低下や病害の発生を防ぐ。
- ④冠水によって土壌中の窒素や加里が流亡し、葉色が薄くなり生育が緩慢になることが心配される。「根腐れ」や「しおれ」がないことを確認した後、追肥として窒素と加里を含む速効性の肥料を施用して、樹勢の回復を図る。
施用方法は、1アール当たり窒素成分で0.1～0.2 kgを5日間隔で2～3回程度、土壌表面または通路に施用する。
- ⑤果菜類では、樹勢の低下が見られる場合は、摘果と若穫りにより着果負担を軽減し、樹勢の回復を図る。また、トマトやトウガラシ類では、カルシウム欠乏による尻腐れ果の発生が心配されるため、カルシウム剤の葉面散布を5日間隔で2～3回程度行う。
- ⑥風雨による茎葉の傷から細菌や糸状菌が侵入し、病害が発生する恐れがあるので、殺菌剤の予防散布を行うとともに、こまめに観察し、発生初期から

- 防除を行う。特に、疫病、軟腐病などの土壌病害の発生が多いので注意する。
- ⑦収穫可能なものは速やかに収穫する。また、播種直後で発芽不良の場合は、直ちに播き直しを行う。
 - ⑧ハウス栽培で冠水した場合には、速やかに排水に努めるとともに、強光でハウス内が高温になる場合は、遮光により昇温を抑制し、草勢の回復を図る。

4 果 樹

- ① 浸水したほ場は、速やかな排水に努める。
- ②ブドウではべと病、ナシでは黒星病や黒斑病、モモではせん孔細菌病、カキでは炭疽病等の発生が予想されるので、適用のある農薬を確認して殺菌剤を散布する。

5 茶

(1) 茶園管理

- ①浸水した茶園は、速やかに排水を図るとともに漂着物を除去する。
- ②激しい降雨で株元が不安定になった幼木園では土寄せを行い、地際部や根を保護するために敷草等を行う。
- ③土砂が流入した場合は速やかに取り除く。逆に表土が流亡した場合は早急に土入れを行う。
- ④病害が発生しやすいので、適用のある農薬を確認し、治療効果のある薬剤による防除を徹底する。
- ⑤茶園にある施設の点検・確認を行う。
 - ア 被覆棚
 - ・パイプ、アンカー、ワイヤー、被覆資材等の破損がないか点検を行う。
 - ・ワイヤー、アンカーの緩みやアンカーの浮き上がりがあれば修理する。
 - イ 防霜ファンの配線（温度センサー含む）、配電盤など、断線等の不具合がないか点検を行う。
 - ウ 獣害柵設置ほ場では、柵の破損や土壌流出による隙間など、動物の侵入口がないか点検を行う。

(2) 茶工場

- ①茶工場内に浸水した場合、速やかに排水し、工場内を十分に乾燥させる。
- ②配線の断線等による漏電、ショートに注意する。マニュアル等で対応する、もしくはメーカーの点検を受ける。
- ③作業時にはヘルメットを着用し、複数で作業するなど安全に留意する。